

でも、100はある。

子どもには

100通りある。

子どもには

100の言葉

100の手

100の考え

100の考え方

遊び方や話し方

100いつでも100の

聞き方

驚き方、愛し方

歌ったり、理解するのに

100の喜び

発見するのに

100の世界

発明するのに

100の世界

夢見るのに

100の世界がある。

子どもには

100の言葉

がある

(それからもっともっともっと)

けれど九十九は奪われる。

学校や文化が

頭と体をバラバラにする。

そして子どもに言う

手を使わずに考えなさい

頭を使わずにやりなさい

話さずに聞きなさい

ふざけずに理解しなさい

愛したり驚いたり

復活祭とクリスマスだけ。
そして子どもに言う
目の前にある世界を発見しなさい
そして100のうち
九十九を奪ってしまう。
そして子どもに言う
遊びと仕事
現実と空想
科学と想像
空と大地
道理と夢は
一緒にはならない
ものだと。

つまり
100なんか無いと言う。
子どもは言う
でも、100はある。

ローリス・マラグッツィ

田辺敬子訳

